

表 題	作 者 (絵師) 版 元・彫 師	年 代	番 号
6. 芝居・役者・歴史			
信州中畷百勇将戦之内 拾六才初陣 真田喜兵衛昌幸 一一鎧の上に着た陣羽織が文銭ちらし模様	一勇斎国芳 斧	[天保14年 弘化4年]	X・2-(78)
教導立志基 (青砥藤綱)	井上探景 画工兼出板 松本平吉 版	明治18年 12月届	〃 2-(79)
今古誠画 浮世画類考之内 大正三年之頃 (山内一豊室) 一一 (2枚続)、手に大判をもつ	真生 小林清親 画工兼出板人 松本平吉 彫 末	明治18年届	〃 2-(80)
源頼光公館土蜘蛛作妖怪図 (3枚続) 一一 X2-(98)に同じ	一勇斎国芳 目		〃 2-(97)
源頼光公館土蜘蛛作妖怪図 (3枚続) 一一 X2-(97)に同じ、 但し上段色違い	一勇斎国芳 目		〃 2-(98)
松平三七郎信幸 (3枚続) 一一三七郎がひく馬の背に千両箱	豊原国周		〃 2-(107)
玄治店芝居役 (3枚続) 一一左図蝠蟻安の手にガク2枚	国 周	[明治4年 5月]	〃 2-(108)
芝居絵 (3枚続) 一一度九郎が霜七の財布を奪わんとす	豊原国周 木曾直次郎 板		〃 2-(109)
芝居絵「処女評判善悪鏡」 (3枚続) 一一左図お更馬お傳の手に小判5枚 同月市村座	国 周 佐野屋富五郎 松嶋彫政 (左) 片田周長 (中)	[慶應元年 8月]	〃 2-(110)
芝居絵「三題咄高座新作」 (3枚続) 一一左図藤治が胴巻を手にもつ	一桃国周 板元 井筒屋	[文久3年 2月]	〃 2-(111)

表 題	作 者 (絵師) 版 元・彫 師	年 代	番 号
芝居絵「蟒お由囀噂仇討」(3枚続) ——右図奥の小頭和吉が肩から胴巻 をかけおり	国 周  遠彦 彫 長	[慶應 2年 2月]	X・ 2-(112)
芝 居 絵 (3枚続) ——女盗賊鬼昌景	豊原国周 彫工 銀次郎		〃 2-(113)
浮名の横櫛三筋の漆絵 ——(豎2枚続掛物絵) 与三から安へ小粒を渡す	豊原国周 出板人 神山清七 彫工 弥太		〃 2-(114)
紀文大尽金撒図(3枚続)	国 周 羽 両国大平 板 彫工 繁	[慶應 2年 9月]	〃 2-(115)
芝 居 絵 (3枚続) ——恵府林の助財布より紙幣を 恵与の場	豊原国周 長谷川久美之助	明治12年 2月28日届	〃 2-(116)
家 の 株 給 金 競 (3枚続) ——下 2/3に宗十郎、芝翫、団十 郎、高助、玉蔵、菊五郎の各当 り役、上段に主要役者の給金高	豊原国周 武川清吉 板 彫 銀次郎	明治13年届	〃 2-(117)
芝 居 絵 (3枚続) ——与三たばこ入より金を出す姿 役者名なし	豊 国 馬喰四木屋 板 彫兼、小泉彫兼、 九才彫子兼	[万延元年 6月]	〃 2-(118)
芝 居 絵 (3枚続) ——馬士胴八銭入を直助権兵衛に 打落さる	豊 国 	[安政元年 8月]	〃 2-(119)
芝 居 絵「三人吉三」(3枚続) ——川端出会之場(庚申堂賽銭箱)	豊 国  馬武森治	[安政 6年 12月]	〃 2-(120)
芝 居 絵 (3枚続) ——鈴木主水の芝居、岡待勤之丞 財布よりひねり金を差出す	豊 国 	嘉永 5年	〃 2-(121)

表 題	作 者 (絵師) 版 元・彫 師	年 代	番 号
芝 居 絵 (3枚続) ——小猿七之助妹おなみ銚銭を前に 倉ヶ野屋に打擲される	豊 国 羽 両国大平 板	[安政 4年 6月]	X・ 2-(122)
中村座見立棟上祝之図 (3枚続) ——櫓より三升以下役者17人銭、 餅をまく図	豊 国 ◇ 若与 板	[元治元年 5月]	〃 2-(123)
金時怪力披露図 (3枚続) ——御殿風の庭上にて金時、米俵の 上に千両箱3箱をのせて片手で かつぎあげる図	豊 国 園 和泉屋市兵衛		〃 2-(124)
芝居絵「木下蔭狭間合戦」 (3枚続) ——娘小冬、盆の上におひねりをの せて差出す、同月、中村座狂言 小冬の顔に墨汚れ	梅蝶楼国貞 ✕ 堀江ニ海老林 松嶋 彫政	[文久 3年 9月]	〃 2-(127)
芝 居 絵 (3枚続) ——森田屋惣治郎封印切	国 貞 司 伊勢兼 田中彫牛	[慶應 2年 2月]	〃 2-(128)
芝居絵 (切られお富)「若葉梅浮名横櫓」 —— (3枚続)、お富首にかけた 財布から安へ金を出す図 同月21日～守田座	梅蝶楼国貞 馬喰四木屋 板 彫巳の	[元治元年 4月]	〃 2-(129)
芝居絵 (勤善懲悪視機関) (3枚続) ——村井長庵、口に奪った財布を くわえる、閏8月4日～守田座	芳 幾 舎 両国かこや	[文久 2年 8月]	〃 2-(130)
お 七 吉 三 (3枚続) ——吉三千両箱を小脇にかかえる 役者名なし	芳 虎 侖	[慶應 2年 11月]	〃 2-(131)
役者絵 (初春三優) (3枚続) ——家橘、芝翫、小団次が各々マユ 玉を肩にした図、 巾着、千両箱が結びつけあり	一英齋芳艶 因	[文久元年 12月]	〃 2-(132)

表 題	作 者 (絵師) 版 元・彫 師	年 代	番 号
芝 居 絵 (かしく六三郎) (3枚続) ——大工六三郎足首に巾着の紐を かけて走る	一勇齋国芳 川 正		X- 2-(133)
惣 俳 優 大 見 立 (3枚続) ——上段に役者名前を掲げ給金と 屋号を角書にす	楊州周延 画工 橋本直義 出板人 長谷川常次郎 彫 銀	明治17年届	// 2-(134)
古 今 大 将 揃 (3枚続) ——役者見立にて頼朝 (左団次)、 家康 (団十郎) 秀吉 (菊五郎) を全面に描き、上段に番付見立 にて東西の各役者の給金を掲ぐ	一六齋国松 画工 歌川国松 出板人安田安五郎		// 2-(135)
歌舞伎座新狂言 鎌倉三代記 (3枚続) ——芝翫の佐々木四郎の下着模様 に“永楽通宝ちらし”	香朝楼 印刷並に発行人 武川 卯之吉	明治24年 印刷出版	// 2-(136)
中村座大入楽屋当り振舞之図 (3枚続) ——直接金銭は不見当、 左葉の右上に破れ目	一雄齋国貞 永寿堂 板	[文化 9年]	// 2-(137)
正 札 附 俳 優 手 遊 (3枚続) ——玩具店頭に入形、面を役者の顔 に似せ各の値段付のように給金 高を記す	一魁齋芳年 正文堂	[文久元年 11月]	// 2-(138)
芝 居 絵 (4枚続) ——稲葉幸蔵親子対面、兩人胴巻を もつ、右2枚 3月、左2枚 4月	豊 国 今	[安政 4年 3・4月]	// 2-(139)
芝居絵「児雷也」(2枚続) ——壺の中より小判涌き出る	豊 国 翁	[嘉永 5年 8月]	// 2-(140)

表 題	作 者 (絵師) 版 元・彫 師	年 代	番 号
芝 居 絵 (2枚続) —— X2-(140) に同じ、但し各葉の 左右とも截落し深く凶柄不合	豊 国 會	[嘉永 5年 8月]	X・ 2-(141)
芝居絵 (梅川忠兵衛封印切) 「恋飛脚大和往来」 (2枚続) ——財布を見せる忠兵衛	豊 国 全 丸久 彫竹	[安政元年 9月]	〃 2-(142)
芝居絵 (梅川忠兵衛封印切) (2枚続) ——忠兵衛小判を投げる	豊 国 今 多吉	[万延元年 3月]	〃 2-(143)
芝 居 絵 「梅ヶ枝」 (2枚続) ——手水鉢母延寿小判を投げる	香蝶楼豊国 會		〃 2-(145)
芝 居 絵 (2枚続) ——馬の背に三千両の箱を積む、 足利三七郎義高これを留む	香蝶楼豊国 彫 正		〃 2-(146)
芝居絵 (稲葉小僧) (2枚続) ——順礼新助、おもとと財布をもす 小僧	豊 国 羽 兩國太平 板	[安政 3年 12月]	〃 2-(147)
役 者 絵 (2枚続) ——芝翫 (魁ノ駒) 左団次 (鬼葛舛) 萬升のもつまゆ玉に金千両など の札下る	豊原国周 彫 工銀	[明治 7年 11月]	〃 2-(148)
役者絵「処女評判善悪鏡」 (女雲助) —— (2枚続)、坂彦の真の屋徳 兵衛小判を手にもつ、 相手、家橘の洲走おくま	国 周 具足屋 板 彫 栄	[慶應元年 8月]	〃 2-(149)
役 者 絵 (2枚続) ——福島や左兵衛 (坂東佐十郎) 小判を手にもつ、博多新七 (歌右 衛門) と長門屋小兵衛 (坂彦) の達引	一勇齋国芳 藤 彦		〃 2-(150)
役者絵 (梅の由兵衛) (2枚続) ——長吉 (岩井糸太郎) より由兵衛 財布を奪い口にくわえる	一勇齋国芳 葵		〃 2-(151)

表 題	作 者 (絵師) 版 元・彫 師	年 代	番 号
役者絵 (梅の由兵衛) (2枚続) ——由兵衛 (菊五郎) 長吉 (門之助) 長吉の手に財布	五渡亭国貞 全川口		X・2-(153)
役 者 絵 (2枚続) ——忠綱 (三津五郎) 物見お松 (半四郎) 松林にて千両箱の山を 両人で見得	五渡亭国貞 魚		〃 2-(154)
千石積湊の大入船 (小判3枚続) ——雛助 (生駒宗次郎)、市十郎 (永楽や茂三郎) 慶女 (花扇) 市十郎の桃灯に「永楽通宝」 の紋	芳 瀧 八尾善 板		〃 2-(155)
尾上之松高に瓢 (小判3枚続) ——丁稚音松 (多見蔵) より娘おう た (右団次) へ附文、下女おき く (多賀之丞)、上段に鼠の 宝物運び図	松桜茂広 玉ノ井 板		〃 2-(156)
外 郎 売 言 立 (2枚続) ——言立のセリフ上段一面、全面は 外郎売と助六	一雄齋国輝 系びすや		〃 2-(157)
不 動 明 王 護 摩 之 場 (2枚続) ——紋付の役者賽銭受の棒つきの ザルを持つ	芳 虎 金鱗堂 梓	[明治 6年 4月]	〃 2-(158)
三 題 咄 高 座 新 作 (2枚続) ——家橘 (竹門の虎) と小団次 (髪 結藤治) 財布をとり合う	粹狂連芳幾 舎 両国加々や 彫工巳の	[文久 3年 2月]	〃 2-(159)
松 本 幸 四 郎 (新兵へ) ——屋根上にて千両箱を抱える	豊 国 鶴屋金助		〃 2-(160)
坂 東 三 津 五 郎 (肴や茂三郎) ——屋根上の猫がくわえる財布から 小判こぼれ落る	豊 国 猫		〃 2-(161)

表 題	作 者 (絵師) 版 元・彫 師	年 代	番 号
尾上菊五郎 (おこま) ——犬のくわえた財布から小判こぼれ出る	豊 国 全 川口		X・ 2-(162)
松本幸四郎 (ひるとんび大磯のとら) ——懐中より小判を畳の上へ	豊 国 茶		〃 2-(163)
小倉擬百人一首 白井権八 ——権八手紙を読む	豊 国 伊場仙 板 彫工竹		〃 2-(164)
見立 三十六句選 白井こん八かふろ ——其角小傾城ゆきてなふらん年の暮、権八手紙を読む	一陽齋豊国 魚 栄	[安政 3年 11月]	〃 2-(165)
秋津嶋と安部の保名 (小横1枚) ——左右向合の形に鏡仕立て二役 役者名なし	豊 国		〃 2-(166)
見立 十二ヶ月ノ内 九月 牛若丸 十月 夷 講 ——上段に夷講として千両箱を積み飾る X2-170に同じ	一陽齋豊国 司 伊勢兼 横川彫竹	[安政 6年 11月]	〃 2-(169)
見立 十二ヶ月ノ内 九月 牛若丸 十月 夷 講 ——X2-169に同じ	一陽齋豊国 司 伊勢兼 横川彫竹	[安政 6年 11月]	〃 2-(170)
当盛見立 三十六花撰 つぼすみれ / 児雷也 ——児雷也の抱える壺から小判あふれる、つぼすみれは題号の下辺に描く	茂翁豊国 平のや 駒阿彫多七	[文久 2年 6月]	〃 2-(171)
児 雷 也 ——千両箱を抱える、直福蒔宝子 実は児雷也	豊 国 林屋庄五郎 彫竹	[嘉永 5年 8月]	〃 2-(172)
役者絵 坂東彦三郎 (斧定九郎) ——財布を口に	茂翁豊国 鍵 庄 彫千之助		〃 2-(173)

表 題	作 者 (絵師) 版 元・彫 師	年 代	番 号
時代世話当姿見 児雷也 ——千両箱を小脇に	豊 国 魚 栄 横川彫竹	[安政 5年 9月]	X・ 2-(175)
豊国漫画図絵 岩淵弥七 ——紙入から小判を抜いて右手に	豊 国 魚栄 板 彫 竹	[万延元年 10月]	〃 2-(176)
東海道五十三次之内 石薬師 細川勝元よく高 ——題号飾りに3の千両箱	豊 国 舎 井筒屋 彫竹、摺大久	[嘉永 5年 6月]	〃 2-(177)
豊国漫画図絵 鬼薊清吉 ——空中に雁が財布を掴んで飛ぶ	豊 国 魚栄 版 横川彫竹	[安政 6年 10月]	〃 2-(178)
<small>じ だいもやうあたるしらなみ</small> 時代模筆当白波 洲走の熊五郎 ——右手に財布	豊 国 魚 栄 横川彫竹	[安政 6年 4月]	〃 2-(179)
時代模筆当白波 雲助仁左衛門 ——千両箱の上に腰を下す	豊 国 魚 栄 横川彫竹	[安政 6年 6月]	〃 2-(180)
誠 忠 大 星 一 代 話 ——銀札を金銭と引替の図	香蝶楼豊国 谷 都沢十軒店		〃 2-(181)
誠 忠 大 星 一 代 話 ——大星、扇子上に千両をのせる	一陽齋豊国 谷 都 澤		〃 2-(182)
誠 忠 大 星 一 代 話 ——山科の稻荷社神官金を拾う図	一陽齋豊国 谷 都 澤		〃 2-(183)
人 形 振 梅 ケ 枝 ——手水鉢より小判	豊 国 佐野喜	[安政 2年 9月]	〃 2-(184)
芝居絵 (与三郎と安) ——与三懐中より金を出す	豊 国 系びすや	[嘉永 6年 4月]	〃 2-(185)

表 題	作 者 (絵師) 版 元・彫 師	年 代	番 号
役者大首絵 片岡仁左衛門 八代目我童 亀屋忠兵衛 一一百両包をもつ	豊 国 金 錦昇堂 彫工 柳三		X・ 2-(186)
芝居絵 (切られ与三) (横1枚) 一一番頭多左衛門財布を差出す	豊 国 上総屋岩藏	[嘉永 6年 4月]	〃 2-(187)
戌の春 喜寿之書初 一一外題脇に芝翫の初卯題の発句を 短冊状にし、同人の男伊達風半 身、上部にまゆ玉飾あり、その 中に千両箱の飾りもの 別に玄魚の署名あり	茂翁豊国 加賀吉 板 彫安刻刀	[文久元年 12月]	〃 2-(188)
役者絵 (河原崎権之助 きられ与三) 一一懐中より紙札を出して数える	豊原国周 辻亀 板 片田彫長		〃 2-(189)
見立 富士十六景 駿河三保 五郎天女 岩井半四郎	豊原国周 遠景周義 令 辻文 彫銀	明治 9年 7月届	〃 2-(190)
新板狂言外題尽 操返開花婦見月 一一左団次のかんきり左吉、紙入 をもつ	豊原国周 萬孫 梓 彫 多	[明治 7年 7月]	〃 2-(191)
児雷也 (市川団十郎) 一一小脇に千両箱	豊原国周		〃 2-(192)
役者絵 中村芝翫 佐々木藤三郎 一一陣羽織に銭模様ちらし	国 周 遠彦 彫政	[慶應元年 7月]	〃 2-(193)
み立 いろはあわせ 与三郎 一一懐にて小判を数う	国 周 片田彫長	[慶應 2年 8月]	〃 2-(194)
仮名手本忠臣蔵 早野勘平 一一懐中に財布	国 周 辻亀 板 彫 栄	[慶應 2年 7月]	〃 2-(195)

表 題	作 者 (絵師) 版 元・彫 師	年 代	番 号
誠忠義士銘々傳 斧定九郎 ——財布を口にくわえる	国 周 具足屋 彫工 多七	[慶應 2年 7月]	X・ 2-(196)
義 女 水 滸 傳 ——小判を手にす	国 周 伊 彫工牛	[慶應 3年 8月]	〃 2-(197)
開化五人美男 鉄道の駒 中村芝翫 ——X2-(198)～(201) まで揃物 上部コマは汐留従ステーション 海岸眺望の景	国 周 伊丸鉄 渡辺彫栄		〃 2-(198)
開化五人美男 上野権次河原崎三舛 ——上部コマは「上野東照宮の景」	国 周 丸鉄 板 渡辺彫栄		〃 2-(199)
開化五人美男 里産の喜の沢村訥舛 ——上部コマ「新吉原仲の町の景」	豊原国周 伊丸鉄 渡辺彫栄		〃 2-(200)
開化五人美男 太鼓橋の菊尾上菊五郎 ——コマ「浅草太鼓橋より両国橋 眺望」	豊原国周 伊丸鉄 渡辺彫栄		〃 2-(201)
見 立 五 行 内 ——上部コマは釣鐘に撞木、役者 (紋所は菊花) 三宝に小判を のせる	一鶯斉国周 さの富 彫 牛	[慶應 2年 10月]	〃 2-(202)
東京 俳 優 大 見 立 [番付] ——上部に役者5人 (団十郎、九 蔵、菊五郎、芝翫、左団次) の 錦絵。各人名の上に給金額	画工編輯兼出版人 永島 福太郎 売捌人 森本 順三郎	明治17年 12月届	〃 2-(203)
芝居絵 実川延三郎 (小1枚) ——路上、膝前の箱には櫛、元結 など	国 員		〃 2-(204)
絵 兄 弟 忠 臣 蔵 五 段 目 ——前景にお軽、奥に定九郎	香蝶楼国貞 佐野喜		〃 2-(205)

表 題	作 者 (絵師) 版 元・彫 師	年 代	番 号
仮名手本忠臣蔵 六段目 ——前景は駕籠で送られお軽、遠景 は勘平切腹、前に財布	香蝶楼国貞 ① 江崎屋吉兵衛		X- 2-(206)
役者絵 尾上松助 和田しづま ——手前に折敷にのせた百両包	五渡亭国貞 河 源		〃 2-(207)
役者絵 中村歌右エ門 ましば久吉 坂東勝次良 てる若 ——和歌(梅屋)、外題脇に千両箱	一勇齋国芳 令		〃 2-(208)
見立 逢見のおかね 岩井半四郎 ——馬の背に千両箱	一勇齋国芳 茶		〃 2-(209)
見立 忠臣蔵 山しな(細判1枚) ——雪でなく小判降る	長 秀 須新 板		〃 2-(210)
役者絵 山中平九郎 宮崎傳吉 ——(細判1枚、紅摺絵) 兩人「和同開珎」を手にもつ、 右下に蕪紋と千鳥形あり、千鳥 の中に六十とあり	中嶋屋はんもと		〃 2-(211)
芝居絵 梅がゑ ——小判湧く	芳 虎 會 彫工善治		〃 2-(212)
役者絵 河原崎権十郎(小鼠忠次) ——手に百両包	国 輝 羽 両国大平 板 彫 竹	[慶應元年 8月]	〃 2-(213)
あは餅曲搗 ——きな蔵、餡太郎の搗手の着物に 千両箱の模様	芳 幾 上金 板	[文久元年 2月]	〃 2-(214)
芝 居 絵(小2枚続) ——しゆん道德次郎(実川延若)大 百にて財布を手にし、前にたは こや奇八(中村駒之助)手をつ く、屋根上の景	芳 雪		〃 2-(215)

表 題	作 者 (絵師) 版 元・彫 師	年 代	番 号
児雷也物かたり 児雷也 実川延若 —— (小1枚) X2-(216-2)と並べて 2枚続の如く貼りあれど、各独 立のものとするべきにつきカード は別にする、小脇に千両箱	芳 景 綿政 梓		X・ 2-(216)-1
契情児雷也 たから子 実川延若 —— (小1枚)、手に抱える壺から 小判湧き出る	芳 瀧 八尾善 板		〃 2-(216)-2
役者絵 市川団十郎 (與三郎) ——花道にて与三懐中から小判を 出す、作者名なきは続絵の端物 の故か	⊕		〃 2-(217)
新板浮絵忠臣蔵第五段目 (横中1枚) ——定九郎、与市兵衛が首にかけ る財布をくわえて斬りかかる	春 扇 板元 丸屋甚八板		〃 2-(219)
役者絵 中村仲太郎 (小じよくお豆) [ヘラヘノヘ節] ——歌詞あり、持の金銭関係不見	守川 周重 版元 神山清七 彫 弥太	明治13年 11月届	〃 2-(222)
雪月花 三州岡崎雪小冬 石川五右衛門 ——娘小冬、お盆におひねりをのせ て差出す	楊洲周延 出板人小林鉄次郎 彫工 藤	明治17年 8月 2日届	〃 2-(223)
近世俠義傳 堤 緒之猪助 ——ガク、銭散乱	魁齋芳年 いせ茂 彫 太田多七	[慶應 2年 4月]	〃 2-(225)
近世俠義傳 ^{あら} ^{わい} 新 甥 留 吉 ——手に財布をもつ	魁齋芳年 いせ茂 彫 太田多七	[慶應元年 10月]	〃 2-(226)
見立 滑稽忠臣蔵 ——三段目～五段目 (揃物の1部) 判官は博打の果の切腹の体にて 前に茶椀と銭散乱	広重狂画		〃 2-(535)

表 題	作 者 (絵師) 版 元・彫 師	年 代	番 号
見立 福人忠臣蔵 七段目 ——大黒(大石)、弁天(お軽)、 ゑびす(九大夫)	五風亭貞虎 ① 江崎屋		X・2-(821)
忠臣蔵見立役割(2枚続) ——定九郎に財布と小判	⊕	[明治元年 閏4月]	〃 2-(1002)
忠孝先代萩 ——政岡と千松、貨幣は特に見えず	一勇斎国芳 ⊕ 伊場仙		〃 2-(1010)
うでの茂三郎 尾上菊五郎 ——富札売場の景で、当り番号の ピラなどが並びあり	一勇斎国芳 ⊕		〃 2-(1013)
あつまの連五郎 坂東三津五郎 ——手拭店の店先で手拭の柄に 千両箱あり	一勇斎国芳 ⊕		〃 2-(1014)

表 題	作 者 (絵師) 版 元・彫 師	年 代	番 号
7. 福神・縁起物・金のなる木			
七 福 神 見 立 (3枚続の内) —X2-(72)、(73)と3枚続 三人画像の掛軸をもつ若武者、 上部扇面に「大江戸日日三千両 繁栄之為市大高書」	国 貞 ⊕ 丸徳 板	[安政 6年 11月]	X・ 2-(71)
七 福 神 見 立 (3枚続の内) —X2-(71)、(73)と合す	国 貞 丸徳 板 小泉彫兼	[安政 6年 11月]	〃 2-(72)
七 福 神 見 立 (3枚続の内) —X2-(71)、(72)と合す	国 貞 彫 兼	[安政 6年 11月]	〃 2-(73)
子 供 踊 尽 近江のおかね —馬の背に千両箱	一勇齋国芳 ⊕		〃 2-(75)
二十四孝見立画合 蔡須	楊洲周延 印刷兼発行者 長谷川常治郎 彫 朝	明治24年 1月 1日 印刷出版	〃 2-(76)
夫 婦 和 合 吉 兆 神 像 (柱1枚)	国 綱		〃 2-(94)
七 福 神 図 (柱1枚)	板元 森屋治兵衛 金		〃 2-(95)
全 盛 黄 金 花 (3枚続) —右葉の右辺は絵柄約1/4 切れて 狭し、富者は紀文と特定し難し X2-(101)に完全版あり	一勇齋国芳 ト 山口	[安政 5年 2月]	〃 2-(96)
巳酉年八月八日酉の刻木性の人うけに入 —図柄はX2-(257)と同一、 名主両判で巳酉は嘉永2年	一宝齋国盛 若与 板		〃 2-(259)
有 卦 二 入 る 和 合 之 福 神 —子十一月六日火性之人うけに 大人、男女神図、足下に諸財宝	豊 国 ⊕	[嘉永 5年 6月]	〃 2-(237)

表 題	作 者 (絵師) 版 元・彫 師	年 代	番 号
有卦ニ入る和合之福神 ——X2-(237)に同じ	豊 国 園	[嘉永 5年 6月]	X・ 2-(238)
十一月六日火性の人 有卦ニ入る ——福助、宝船にのる	一惠齋 画 全 辻岡屋	[嘉永 5年 6月]	〃 2-(248)
文久元年辛酉八月五日本性人有卦入 ——三方の上に金小判	桜梓 齋 ⊙ 品川屋	[文久元年 6月]	〃 2-(244)
酉の年八月五日本性の人うけニ入	一惠齋芳幾 ⊙ 遠彦	[文久元年 6月]	〃 2-(247)
有卦入図 八月五日本性の人うけニ入 ——福助の周辺を“ふ”字を冠する 擬人画 (ふき、ふとん、ふな、 ふで等) がかこむ中に千両箱 あり	一鶴齋芳藤 ⊙ 丸鉄 彫 銑	[文久元年 7月]	〃 2-(240)
火性の人 有卦ニ入 ——福助福祿寿の前に財宝を白木台 にのせて出す	芳 年 正文堂	[元治元年 10月]	〃 2-(245)
安政二年二月十日金性の人うけにいる ——安政2年は(改)と(支月)と の2印制、名主両判とは異なる X2-(259)の旧版を改作せしもの と推定	一宝齋国盛 若与 板		〃 2-(257)
安政二年二月十日金性の人うけにいる ——X2-(257)に同じ	一宝齋国盛 若与 板		〃 2-(258)
来ル五月七日土水性之人 有卦ニ入	松齋年雪 津田源七 板元	明治15年 2月21日届	〃 2-(253)
明治十八年八月十日木性人有卦に入 旧九月十五日 ——次のX2-(252)に同じ、布袋図	画工兼出版 勝木吉勝 彫 信	明治18年 7月15日届	〃 2-(251)
明治十八年八月十日木性人有卦に入 旧九月十五日 ——次のX2-(251)と同図、保存良	画工兼出版 勝木吉勝 彫 信	明治18年 7月15日届	〃 2-(252)

表 題	作 者 (絵師) 版 元・彫 師	年 代	番 号
明治十八年八月十日 木性之人うけニ入 ——ザンギリの福助が金を撒く	長谷川園吉		X- 2-(256)
明治廿四年二月十日金性ノ人うけニ入	印刷兼発行者 ⊗ 山村鑛次郎	明治24年 1月10日 印刷出版	// 2-(249)
金 性 有 卦 ニ 入 ル	楊齋延一 印刷兼発行者 勝木吉勝	明治24年 印刷出版	// 2-(254)
明治三十三年十一月十一日子ノ十二時 火性の人 有卦に入る ——X2-(249)、(250)類似図	印刷兼発行者 長谷川常二郎		// 2-(255)
卯ノ二月卯ノ日金性ノ人ウケニ入 ——X2-(249)と構図類似			// 2-(250)
ふだのなる木 当ル五月十七日午の時土水性うけニ入 ——金のなる木のもじり	よし藤 ⊗		// 2-(241)
有 卦 入 図 (福助異り絵) ——八月八日木性の人 有卦入、福助 の衣服は“かのほふくすけ”眉 は筆穂、目はふぐ、口は紐で示 す異り絵	一 齋 齋 芳 藤 ⊗		// 2-(239)
八月八日酉のこく 木性の人うけニ入 ——中央の金成木見立の頂点に小判 6枚	一 齋 齋 芳 藤 ⊗		// 2-(243)
八月八日有卦に入木性の人 (横1枚) ——福助とおふく	一 秀 齋 芳 勝 ⊗		// 2-(246)
ふだのなる木 当九月三日木性うけニ入 ——構図は X2-(241) に同じなれど 細部は相違	よし藤		// 2-(242)
(注) 有卦ニ入絵は55頁、88頁、115 頁 も参照。			

表 題	作 者 (絵師) 版 元・彫 師	年 代	番 号
金のなる木繁栄ノ図 (3枚続) ——糸ひす大黒・弁天	香蝶楼国貞 茶 根元板もと栄久堂		X・2-(260)
金の成木不景木の根だやし (3枚続)	画工兼出板人 林 吉蔵	明治17年 9月22日届	〃 2-(262)
婦久徳金の成木ほどのよ木 ——X2-(263)~(274) まで揃物 桃李の句あり	広 重 圓 有田屋		〃 2-(263)
婦久徳金の成木ほどのよ木 ——X2-(263)と同図、但し衣装の 模様は異なる	広 重 圓 有田屋		〃 2-(264)
婦久徳金の成木ほどのよ木 ——X2-(263)、(264)と同図 但し衣装のは両図とも異なる	広 重		〃 2-(265)
婦久徳金の成木をとなし木 ——有女の句あり	広 重 圓 有田屋		〃 2-(266)
婦久徳金の成木たしなみよ木 ——湖外の句	広 重 圓 有田屋		〃 2-(267)
婦久徳金の成木しゆせ木 ——手紙を書く図にて手蹟を描く 左野女の句	広 重 圓 有田屋		〃 2-(268)-1 (右)
婦久徳金の成木うつくし木 ——高山の句	広 重 圓 有田屋		〃 2-(268)-2 (左)
婦久徳金の成木いそがし木 ——長定七の句	広 重 圓 有田屋		〃 2-(269)
婦久徳金の成木あさを木 ——有田定茂智の句、かねつけの図	広 重 圓 有田屋		〃 2-(270)
婦久徳金の成木しゆせ木 ——X2-(268)-1に同じ	広 重 圓 有田屋		〃 2-(271)

表 題	作 者 (絵師) 版 元・彫 師	年 代	番 号
婦久徳金の成木ぎやう木 ——有田定茂智の句	広 重 圓 有田屋		X・ 2-(272)
婦久徳金の成木こんよ木 ——五十鈴司馬浅の句	広 重 圓 有田屋		〃 2-(273)
婦久徳金の成木むつまし木 ——松哥女の句、玉子酒を作る図	広 重 圓 有田屋		〃 2-(274)
開運出世大黒大當おこさま御きげんよ木	房 種 兌 辻文板	[慶應 3年 4月]	〃 2-(275)
開運出世大黒大當おこさま御きげんよ木 ——X2-(275)に同じ	房 種 兌 辻文板	[慶應 3年 4月]	〃 2-(276)
福 人 宝 の 入 船 ——えびす大黒図	房 種 印刷兼発行者 三宅 半四郎	明治21年11 月 5日印刷 同 8日出版	〃 2-(277)
開 運 福 寿 ——えびす大黒	房 種 画工 村井 静 出版人樋口銀太郎	明治12年届	〃 2-(278)
開 運 金 之 成 木 ——上半は明治十九年略略 下半はえびす大黒	按斎房種 編輯兼出版人 小森宗治郎	明治18年 11月 7日届	〃 2-(279)
金 の な る 木 ——上辺に「積善之家有余慶」(一 部文字切れ)、えびす大黒	瓢金舎一寸子 筆		〃 2-(280)
金 の な る 木 ——X2-(280)と同一版、但し地色 なし、上辺の文字は定金	瓢金舎一寸子 筆		〃 2-(281)
開 運 金 之 成 木 ——X2-(280) (281) と同図形ながら 上辺の文字を表題の如く変えあ り、地色なし	瓢金舎一寸子 筆		〃 2-(282)
開 運 出 世 金 の な る 木	一寿斎芳員 舎 満屋 板	[安政 6年 6月]	〃 2-(283)



表 題	作 者 (絵師) 版 元・彫 師	年 代	番 号
開運出世金のなる木 ——X2-(283)と同版、但し上半の 地色無地	一寿齋芳員 舎萬屋 板	[安政 6年 6月]	X- 2-(284)
自力更生金のなる木 (複製) ——右上に御慶、商、検、福をとり の春と増刻、 原画はX2-(282)、(283)	(原画) 一寿齋芳員		〃 2-(285)
高砂金の成る木 ——高砂の尉と姥	貞 重		〃 2-(286)
開運出世金之なる木 ——福助とお福とがもつ掛軸に金の なる木を描く	歌川貞重		〃 2-(287)
金の成樹初旭恵 ——あびす大黒	国 輝 倉		〃 2-(288)
福神身なる金之図 ——あびす大黒	国 輝 羽 両国大平 板	[文久 2年 4月]	〃 2-(289)
宝花盛 ——金のなる木の実 (小判) を竿で 落すを庶民等拾う	一筆蒼英寿 上 岩	[安政 2年 11月]	〃 2-(290)
宝花盛 ——X2-(290)に同じ	一筆蒼英寿 上 岩	[安政 2年 11月]	〃 2-(291)
金になる木、金にならぬ木 ——公家と銃剣鉄砲をかまえる軍人			〃 2-(292)
金になる木、金にならぬ木 ——X2-(292)に同じ			〃 2-(293)
櫻 銭 樹 之 図 (細判1枚、紅摺絵)			〃 2-(294)
金 の 成 木 (細判1枚、紅摺絵) ——あびす大黒			〃 2-(295)

表 題	作 者 (絵師) 版 元・彫 師	年 代	番 号
金の成木 (細判1枚、紅摺絵) ——あびす大黒と娘	叁		X・2-(296)
金のさかり (細判1枚、紅摺絵) ——熊手で小判をはく小児2人 (高砂見立)	須藤 板		〃 2-(297)
金のなる木 ——大黒と酌婦	一 鶴齋芳藤 刃		〃 2-(298)
金のなる木 ——娘2人、かごに拾い集めているのは木の葉、上辺に小判を成らしたさし枝	一 梅齋芳春		〃 2-(299)
金のちる木、金のなる木 ——大植木鉢の左側はなる木で下に帳合している商人、右側はちる木で下に酒を前に三味線ひく女	一 英齋芳艶		〃 2-(300)
鎌倉銭洗井	国 福 越 平	[文久2年 8月]	〃 2-(301)
金のなる木 ——上段に「日々儉約一年の積高」 下にあびす大黒	一 宝齋国盛 錦魁堂 [社印]		〃 2-(302)
金のなる木 ——上段に「一文倍增三十日積高」 下にあびす大黒	伸齋英松 [社印]		〃 2-(303)
大福吉日 福神婚禮の図 ——あびすと弁天の祝言を大黒立合 金のなる木、千両箱あり	一 宝齋国盛 [社印]		〃 2-(304)
^{なる} 金の生きあとみよそ和哥拔書 三 ——X2-(306)と続いて揃物の一部	北尾花蘭齋美丸 一 圓齋国丸 茶		〃 2-(305)



表 題	作 者 (絵師) 版 元・彫 師	年 代	番 号
金のなる木 ^{よみほん} 狂歌読本抜書 二 ——弁天 (英泉) 布袋 (豊国) 寿老人 (国貞)	溪斎英泉 ——陽斎豊国、国貞 灸		X・ 2-(306)
麥 年 貢 納 始 の 事 ^{おさめ はじめ} ——糸びす大黒にて根付の金成木を 運び入れる図	五雲亭貞秀 	[安政 5年 10月]	〃 2-(307)
人 集 ^{じん しゅう} 無 易 郡 繁 栄 之 図 ——左側余白あり、2枚続の1部か 小判の実る木の下で馬方、車力 船人、かるこら酒食中	吾 伊 勢 兼	[文久 3年 3月]	〃 2-(308)
表 裏 金 の なる 木 ——大黒と酒を飲む女	北 峯 		〃 2-(309)
福 神 金 の なる 木 鉢 植 ——糸びす大黒鉢を荷背負う	近江屋其吉 板		〃 2-(310)
開 運 出 世 大 黒 ——糸びす大黒、金のなる木	梅堂国政 画工 竹内栄久 出版人辻岡文助 灸 辻文 板	明治17年届	〃 2-(311)
七 福 即 生 開 運 出 世 ——糸びす大黒、金のなる木	梅堂国政 灸 辻文 板	[明治 5年 8月]	〃 2-(312)
家 内 安 全 開 運 出 世 ——糸びす大黒蔵内に、金のなる木	木屋 板	明治 5年	〃 2-(313)
金 の 成 る 木 ——糸びす大黒帳合、銭1文倍增 30日積高	文 浪 ① 江崎屋		〃 2-(314)
福 神 遊 (細判1枚) ——糸びす大黒に小児を背負う娘、 上辺に小判の実る枝	叁		〃 2-(315)
奇 樹 金 の なる 木 (細長1枚) ——掛軸図に糸びす大黒	灸		〃 2-(316)

表 題	作 者 (絵師) 版 元・彫 師	年 代	番 号
植 木 つ く し ——上辺截落しにて表題、板元印、 極印、画者名何れも上半不明、 16の鉢植の中に「金のなる木」 「銭のなる木」あり			X・2-(317)
ひ や う ば ん 木 ——小判の詰まった長持に生える	茂 里	[慶應 2年 12月]	〃 2-(318)
出入宿久保田屋大小曆 (歳旦摺物) —— (横長1枚) 年礼に伴する丁稚 が金のなる木を担ぎ路傍の小児 がもつ紙凧に大小曆、同大小月 は嘉永 5年壬子	一勇齋国芳	嘉永 5年	〃 2-(319)
金 の な る 木 (豎小判1枚) ——福助が金のなる木を鉢に植えん とす	文 浪 (文)		〃 2-(320)
宝 の 山 (小1枚) ——木の枝の小判を落として拾う図			〃 2-(321)
明 治 十 六 年 略 曆 ——床間の3掛軸に大小月と祭日等 床飾の花に「金のなる木」	編輯兼出版人 佐藤新太郎	明治15年 11月廿日届	〃 2-(322)
金 さ つ の 成 る 木、ふけい木 ——画面を斜めに区切り、左上に 「金さつの成る木」、右下に 「ふけい木」を画く (風刺の意あり)	編輯兼出板人 羽田富次郎	明治16年 3月26日届	〃 2-(323)
開 運 金 の な る 木 ——掛軸仕立、福助とお福	貞 兼		〃 2-(324)
金 の な る 木 ——上部に慶應四戊辰の大小曆 ゑびす大黒	勘左衛門改 伊場屋仙三郎	慶應 3年	〃 2-(325)
万 民 お ど ろ 木 (2枚続) ——金のなる木のパロデーで金の散 る木の下で酒宴 X2-378 に同じ			〃 2-(377)

表 題	作 者 (絵師) 版 元・彫 師	年 代	番 号
万 民 お ど ろ 木 (2枚続) —金のなる木のパロデー X2-377 に同じ			X・ 2-(378)
持 丸 た か ら の 出 船 —鯨にとりつかれた男が金銭を はき出す、左側1Cmほど切落			〃 2-(556)
繁 昌 た か ら 船 (横1枚) —波に見立てた瓦の上を鯨の船に 財宝を積む7人は大工、読売、 遊女、火消など、記事は「なが き夜の」回文もじり			〃 2-(565)
七 福 神 宝 の 蔵 入 (3枚続) —七福神へ鼠が二股大根や米俵 などを運ぶ、表題に振仮名の 書入れあり	一勇齋国芳 全 辻岡屋		〃 2-(584)
七 福 神 岩 戸 の 蔵 開 (3枚続) —岩戸の内は山積の千両箱、左右 に小判になった松の枝、 岩戸神楽の見立	一勇齋国芳 ◇ 遠 彦		〃 2-(586)
諸 国 豊 年 貢 の 蔵 入 (3枚続) —七福神が蔵前の座敷で小判の 計算	一勇齋国芳 若狭屋		〃 2-(587)
いま やう ふく じん たから あそび 今 様 福 神 宝 遊 狂 (3枚続) —衝立の陰の七福神が町家の子供 等遊ばせる	一鶯齋国周 龠 馬式森治		〃 2-(588)
七 福 神 餅 つ き の 図 (3枚続) —座敷の三宝から小判こぼれる	国 周 木屋板 彫 栄	[慶應 2年 9月]	〃 2-(589)
七 福 神 遊 楽 図 (3枚続) —酒宴舞踊の図、小判財宝あり	一勇齋国芳 園		〃 2-(590)
福 神 棟 上 祝 之 図 (3枚続) —上棟式にて撒植用の小判を三宝 に積む	朝霞楼芳幾 ト 山口	[慶應元年 8月]	〃 2-(591)

表 題	作 者 (絵師) 版 元・彫 師	年 代	番 号
七福神 恵方参り (3枚続) ——毘沙門のかつぐマユ玉に千両箱 の飾り	一蕙斎芳幾 ト 山口	[明治 2年 4月]	X・ 2-(592)
七福神 春 戯 (3枚続) ——馬車、電線あり、台車に千両箱	一蕙斎芳幾 △ 辻文板	[明治 4年 10月]	〃 2-(595)
七福神 春 戯 (3枚続) ——X2-595に同じ	一蕙斎芳幾 △ 辻文板	[明治 4年 10月]	〃 2-(596)
福 神 黄 金 の 巻 狩 (3枚続) ——糸びす天が鯛を足で押え七福神 の富士巻狩見立	芳 虎 ① 遠 彦 彫 長	[慶應元年 8月]	〃 2-(598)
七福神 宝の 酒盛 (3枚続) ——小判、千両箱あり	錦朝楼芳虎 △ 金 総 與		〃 2-(599)
七福神 宝の 参 宮 (3枚続) ——奉納用とするものか金になる木 を携行	芳 虎 ① 遠 彦 片田彫長	[文久 3年 10月]	〃 2-(600)
七福神 宝の 参 宮 (3枚続) ——X2-600と同じ、但し少シアレ	芳 虎 ① 遠 彦 片田彫長	[文久 3年 10月]	〃 2-(601)
士濃職商 七福神豊年遊 (3枚続) ——上1/3 は七福神、下2/3 に士、 農、職人、商人 (但し女3人) 商人風の大黒頭巾の老人千両箱 に腕をかけて座る	一勇斎国芳 ⊙		〃 2-(602)
七福神 上 棟 祝 (3枚続) ——小判を撒く、七福神に福助と おかめが加わる	玉蘭斎貞秀 △		〃 2-(604)
福 神 宝 酒 宴 (3枚続) ——金のなる木その他	玉蘭斎貞秀 △ 藤 慶		〃 2-(605)

表 題	作 者 (絵師) 版 元・彫 師	年 代	番 号
見立七福神(3枚続) ——団菊ほか役者の見立、飛鶴の足に千円札、岩上の亀は百円札を咬える、磯のさんごは金のなる木仕立	揚洲周延 画工 橋本直義 出板人長谷川其吉 彫 龍	明治10年届	X・2-(606)
七福神宝の蔵入(3枚続) ——大黒天の袋に小判を入れ込む	周 延 画工 橋本直義 出板人松下平兵衛	明治13年 11月廿日届	〃 2-(607)
七福神宝の入船(3枚続) ——龍頭の宝船に千両箱を積みあり	広 重 画工 安藤徳兵衛 出版人木曾直治郎	明治11年 11月26日届	〃 2-(608)
小児見立七福神(3枚続) ——ながき日の……	広重戯筆 印刷兼発行者 福田熊次郎	明治21年 11月10日 印刷出版	〃 2-(609)
福神遊び宝の牧狩(3枚続) ——上部各隅破損	一勢斎芳勝 辻 安		〃 2-(610)
金性の人 卯ノ年二月十日有卦ニ入 ——(3枚続)、布袋、大黒に小判	一笑斎房種 木屋 板 佐七 刻	[安政 2年 正月]	〃 2-(611)
七福揃宝の入船(3枚続) ——俵に小判をつめ込む、奥に金のなる木、千両箱	国 郷 羽 両国大平 板	[安政 2年 5月]	〃 2-(612)
七福神 在宝蔵入図(3枚続)	幾 英 印刷兼発行者 長谷川 園吉	明治21年 9月印刷 同月出版	〃 2-(614)
海辺七福神(3枚続)	哥 磨 		〃 2-(616)
福神三ッ久美盃(3枚続) ——床の間に金のなる木	一光斎芳盛 ト 山 口		〃 2-(617)

表 題	作 者 (絵師) 版 元・彫 師	年 代	番 号
福 神 遊 宝 之 山 入 (3枚続) ——深山に七福神、宝の山の前に 擬人銭の警固役 中葉の右側、右葉の左側に破れ	貞 重 矢 池 仲 上 金		X・ 2-(618)
明治二十年亥ノ孟春 七福富士之萬花神 —— (3枚続)、大黒天が猪の背に 跨り小槌をふる	惺々暁斎 画工 河鍋洞郁 出板人 武川清吉 ホリ銀	明治19年 12月廿日届	〃 2-(619)
新版 七福神市原野見世図 (3枚続) ——小判、財宝散乱	入道暁斎、 如空暁斎、画工発 行並に印刷人 武川卯之吉	明治21年12 月印刷出版	〃 2-(620)
毘 沙 門 天 寅 狩 之 図 (3枚続) ——路上に金銭財宝散乱	暁 翠 女 武川卯之吉	明治22年 印刷 同 出版	〃 2-(621)
新 版 大 黒 天 福 引 之 図 (3枚続) ——大黒天のもつ宝引の紐を鼠らが 引く、脇では布袋と福祿寿が 「鳥羽絵」を踊る	惺々暁斎 印刷兼出版人 武川卯之吉 ホリ銀		〃 2-(622)
福 神 豊 年 の 喜 び (3枚続) ——七福神と唐子、繭玉に小判	梅寿国利 印刷兼発行者 堤 吉兵衛	明治24年 印刷出版	〃 2-(623)
七 福 神 辰 年 図 (3枚続) ——大黒天が龍の画を揮毫、毘沙門 の代りにおかめ	暁 翠 女 印刷並ニ発行人 武川卯之吉	明治24年 印刷 同 出版	〃 2-(624)
福 神 宝 の 蔵 入 (3枚続) ——七福神、千両箱と財宝	梅翁国利摹 印刷兼発行者 堤 吉兵衛	明治25年 印刷出版	〃 2-(625)
巳 年 の 福 神 遊 (3枚続) ——あびす天手に蔓蛇をもって踊る	暁 翠 印刷並ニ発行人 武川 清吉	明治25年 印刷出版	〃 2-(626)

表 題	作 者 (絵師) 版 元・彫 師	年 代	番 号
七 福 神 午 年 図 (3枚続) ——作者は暁翠か、 起耕、田植、刈入図	印刷並ニ発行人 武川 清吉	明治26年12 月印刷発行	X- 2-(627)
大 判 と 七 福 神 (3枚続) ——左葉の拾両大判図は辻文板なり しをそのまま再利用したものか X2-615参照、左葉と同じ	方円舎清親 玉章写 (左葉) 画工 小林 清親 出板人福田熊治良 △ 辻文 板	明治13年 12月届	〃 2-(628)
大 判 図 (3枚続のうち1枚) ——X2-628参照	玉 章 画工 小林清親 出板人福田熊治良 △ 辻文 板	明治13年 12月届	〃 2-(629)
福 の 帳 合 図 ——鼠が小判を咬えて大黒の懐へ “大黒の腹にふえくるねつみさ ん、ゑび寿がそふる福の帳合”	惺々入道暁斎、 勝文斎椿月 印刷兼発行者 福田熊次郎	明治22年 12月印刷 同 出版	〃 2-(632)
詠 職 七 福 神 (2枚続)	一 鵬斎芳藤 ㊦ 本郷 丹半		〃 2-(633)
子 ノ 年 吉 寿 福 神 遊 び (2枚続) ——ゑびす大黒、千両箱と小判	美丸 画		〃 2-(634)
吉 例 福 神 遊 (2枚続) ——ゑびす大黒、千代萩床下見立	一 雄斎国貞 ㊦		〃 2-(635)
福 神 蚕 買 入 図 (2枚続) ——ゑびす大黒が蚕荷をはかる	英 泉 ㊦ 江崎屋		〃 2-(637)
福 神 世 直 於 登 理 (2枚続) ——七福神の踊り、上段白描にて 鼠が千両箱を担ぐ			〃 2-(638)
福 神 春 興 図 (3枚続の内2枚) ——布袋、毘沙門を欠 (右葉頁か) ゑびす大黒は万才の体	一 惠斎芳幾 木屋 板 九才彫子兼、彫兼	[万延元年 8月]	〃 2-(639)
七 福 神 耕 作 之 図 (3枚続の内2枚) ——左葉欠、蔵前の木に小判実のる			〃 2-(640)

表 題	作 者 (絵師) 版 元・彫 師	年 代	番 号
福 神 宝 船 図 (横大1枚) ——千両箱を積む、船の2階には 狸々	仙鶴堂寿 梓		X・2-(642)
浅井連ねり物連名 (横大1枚) ——浄るり、地方、はやしを入れた 演し物の連名は三代吉、豆助、 光丸など藝者とおぼしき名 名前を小判形の中に記し、掛軸 に大黒天			〃 2-(643)
大 黒 天 図 ——富貴窓花丸の歌、千両箱を片手 でさし上げる	溪斎英泉 ⑩ 江崎屋		〃 2-(644)
福 神 祭 礼 図 ——糸びす大黒が小判の成る松を 冠せしまといをふる	溪斎英泉 山甚 板		〃 2-(645)
福 神 祭 礼 図 ——X2-(645)と同図、但し、色調と 遠景に相異あり、板元も別	溪斎英泉 ⑩ 江崎屋		〃 2-(646)
福 神 繭 玉 作 り 之 図 ——糸びす大黒がまゆ玉を大鉢で ねる図、周辺に小判散乱	溪斎英泉 ⑩ 江崎屋		〃 2-(647)
福 神 繭 玉 作 り 之 図 ——X2-(647)と同じ	溪斎英泉 ⑩ 江崎屋		〃 2-(648)
福 俵 蔵 積 図 ——琴樹園二茂の歌	溪斎英泉 ⑩ 江崎屋		〃 2-(649)
福 俵 蔵 積 図 ——X2-(649)と同図柄、但し色調 変る	溪斎英泉 ⑩ 江崎屋		〃 2-(650)
二福神図 —小判降下— ——小判などが天井より降るを、 糸びす大黒が掃き集める、雲間 には龍あり	英 泉 龠馬武森治 大泉彫兼		〃 2-(651)

表 題	作 者 (絵師) 版 元・彫 師	年 代	番 号
二福神図 一 小判降下 一 一一X2-(651)と同一、但し板元別 彫名もなし	英 泉 ⑩ 江崎屋		X・2-(652)
高砂見立福神図 一一小判を掃き集む	溪斎英泉 金 総州屋		〃 2-(653)
福神宝船売り図 一一信州布施、梅柳庵春江の歌	溪斎英泉 ⑩ 江崎屋		〃 2-(654)
二福神新春福寿図 一一ゑびす大黒	溪斎英泉 金 馬武森治 彫 兼		〃 2-(655)
福神餅搗図 一一臼の中、周辺ともに小判	溪斎英泉 金 本郷五 藤彦 板		〃 2-(656)
福神玉廻し之図 一一宝珠を掌の上で廻す大黒	英 泉 佐野喜		〃 2-(657)
銭一文日倍積 一一ゑびす大黒と千両箱、小判	溪斎英泉 ⑩ 江崎屋		〃 2-(658)
福神図 一一初夢廻延喜の歌、大黒天包丁 で桑を刻む	溪斎英泉 ⑩ 江崎屋		〃 2-(659)
福神黄金水 一一銘「黄金水」のコモかぶり樽 の一つより徳利にはかり込むは 小判、ゑびす大黒と寿老人	溪斎英泉 ⑩ 江崎屋		〃 2-(660)
福神鹿嶋踊図 一一ゑびす大黒	溪斎英泉 ⑩ 江崎屋		〃 2-(661)
二福神独楽廻之図 一一千両箱、小判、ゑびすの釣糸上 にこまをわたす	英 泉 ⑩ 江崎屋		〃 2-(662)



表 題	作 者 (絵師) 版 元・彫 師	年 代	番 号
豊 歳 黄 金 蔵 入 ——千両箱を蔵へ運び入れるゑび す大黒	溪斎英泉 ① 江崎屋		X・ 2-(663)
二 福 神 舞 踊 図 ——ゑびす大黒のつれ舞	溪斎英泉 ① 江崎屋		〃 2-(664)
二 福 神 鶏 合 図 ——歌に“酉の春”とあり極印のみ の酉年は文政 8年又は天保 8年	溪斎英泉 ① 江崎屋		〃 2-(665)
福 神 あ そ ひ 見 立 高 砂 ——海辺に恵比寿大黒と鶴亀	英 泉 佐野喜		〃 2-(666)
二 福 神 巳 成 金 ——歌の題に“巳成金”とあり、三 宝の小判、金のなる木の幹に “身”字を入れあり、巳年の 祝図か、ゑびす大黒	溪斎英泉 ① 江崎屋		〃 2-(667)
福 神 稻 刈 図	英 泉 佐野喜		〃 2-(668)
福 神 遊 び 図 髪 結 ——歌に“ひつじのまゆ”…… 髪盃にゑびすは刺刃をもつ	英 泉 ① 江崎屋		〃 2-(669)
二 福 神 あ そ ひ 図 四 海 波 ——船上にゑびす大黒、網で小判を 採る	英 泉 佐野喜		〃 2-(670)
二 福 神 図 ——蜀山人の歌、ゑびす大黒に兎 2羽、卯年か	溪斎英泉 		〃 2-(671)
大 黒 天 図 ——山海陳人二喜の歌、大黒と鼠、 金蔵へ金を運ぶ	溪斎英泉 ① 江崎屋		〃 2-(672)
勸 善 懲 悪 大 黒 天 ——大黒天、善玉が色・欲・奢・悪 らを召捕、	英 泉  泉 市		〃 2-(673)

表 題	作 者 (絵師) 版 元・彫 師	年 代	番 号
大 黒 天 図 ——秩父三舛角樽の歌に“きのえ ね” 大黒天“蚕”と記せし 宝珠をもつ	英 泉 龠	(文化元年)	X・ 2-(674)
二 福 神 図 ——和漢詩歌、ゑびす大黒	溪斎英泉 ⑩ 江崎屋		〃 2-(675)
二 福 神 図 (横1枚) ——横1枚をタテに2分割して2図 仕立とす、左は蔵内にゑびす 大黒、右は耕地にゑびす大黒 X2-(677)と揃物か?	英 泉 ⑩ 江崎屋		〃 2-(676)
馬 と 二 福 神 図 (横1枚) ——横1枚をタテに2分割、 X2-(676)と揃か、左はお兼、右 は一の谷見立にて何れも馬を 配す	英 泉 ⑩ 江崎屋		〃 2-(677)
正むだ附かけねなし 御異見大安売 ——上部 2/3口上、下 1/3に店頭図 (ゑびす、大黒と福祿寿)	英 泉 龠 森治 版		〃 2-(678)
七 味 売 大 黒 天 ——X2-(680)に同じ、保存良好	英 泉		〃 2-(679)
七 味 売 大 黒 天 ——X2-(679)に同じ	英 泉		〃 2-(680)
二 福 神 力 持 図 ——琴樹園ニ喜の歌、ゑびす片手 に俵をさし上ぐる図、大黒は 口上人	溪斎英泉 ⑩ 江崎屋		〃 2-(681)
卯 の 春 寿 ——ゑびす大黒の兎を猿廻しに見立	溪斎英泉 ⑩ 江崎屋		〃 2-(682)
歳 旦 大 黒 図 ——大黒の瓢箪形の福袋より春駒 かけ出る	溪斎英泉 ⑩ 江崎屋		〃 2-(683)

表 題	作 者 (絵師) 版 元・彫 師	年 代	番 号
二 福 神 図 ——ゑびす小判を入れし箕を担ぎ 大黒、樹に小判を計り込む	英 泉 森屋治兵衛		X・ 2-(684)
福 神 賀 の 祝 い ——ゑびす大黒にて「菅原」の賀の 祝い見立	溪齋英泉 ⑩ 江崎屋		〃 2-(685)
福 神 門 礼 図 ——大黒と福助	溪齋英泉 金 総興		〃 2-(686)
大 黒 歳 旦 図 (横1枚) ——句に“むまの春”、お福が馬士 風にて、馬には大黒が乗る	英 泉 金 総州屋		〃 2-(687)
二 福 神 菊 作 り 図 (小1枚) ——其角の句、小判の咲く菊を仕立 中のゑびす大黒	英 泉		〃 2-(688)
福 神 畷 作 之 図 (細判1枚) ——小判を唐箕にかけるゑびす大黒	国 美 ◇		〃 2-(689)
福 神 黄 金 の 箱 詰 (細判1枚) ——七福神が千両箱に小判をつめ 込む	国 美 ◇		〃 2-(690)
二 福 神 図 (細1枚) ——ゑびすのささげる米俵の上に 大黒、大黒は小判の成る枝を 肩に担ぐ	国 美 ◇		〃 2-(691)
知 足 大 黒 図 (細1枚) ——銭に見立し ㊦ [吾唯知足] の 板を掲ぐ	国 美 金		〃 2-(692)
大 黒 天 図 (細1枚) ——馬の背に千両箱を積む大黒、荷 の上で唐子がラッパを吹く	国 美 金		〃 2-(693)
福 神 子 供 遊 (小色紙1枚)	国 美 ◇		〃 2-(696)